2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月４日

上場会社名　　ゼリア新薬工業株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　4559　　ＵＲＬ　https://www.zeria.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長兼ＣＯＯ　　（氏名）伊部　充弘
問合せ先責任者　（役職名）広報部長　　（氏名）田村　宏一　　ＴＥＬ　03-3661-1039

半期報告書提出予定日　　2026年11月６日　　配当支払開始予定日　2026年12月１日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	45,461	13.8	5,646	55.1	5,191	95.4	3,959	127.8
2026年３月期中間期	39,960	△5.8	3,641	△43.6	2,656	△66.6	1,737	△71.3

（注）包括利益　2027年３月期中間期　3,813百万円（24.1%）　2026年３月期中間期　3,073百万円（△68.3%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	89.82	―
2026年３月期中間期	39.42	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	178,816	111,314	62.1
2026年３月期	179,697	108,604	60.3

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　111,083百万円　2026年３月期　108,396百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	24.00	―	25.00	49.00
2027年３月期	―	25.00			
2027年３月期（予想）			―	26.00	51.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
配当予想の修正については、本日（2026年11月４日）公表いたしました「期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,000	6.6	13,000	5.1	13,000	17.7	10,000	18.3	226.86

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　ー社　（社名）　　、除外　ー社　（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
　　（注）詳細は、添付資料Ｐ．９「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
　①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無
　②　①以外の会計方針の変更　　：無
　③　会計上の見積りの変更　　：有
　④　修正再表示　　：無
　　（注）詳細は、添付資料Ｐ．９「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更に関する注記）」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	50,119,190株	2026年３月期	50,119,190株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	6,039,802株	2026年３月期	6,039,792株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	44,079,397株	2026年３月期中間期	44,079,485株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（会計上の見積りの変更に関する注記） …… 9
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（重要な後発事象の注記） …… 11
３．補足情報 …… 11
（１）主要製商品売上高　連結 …… 11
（２）新薬パイプラインの状況 …… 12

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の売上高は、454億61百万円（前年同中間期比13.8％増）となりました。利益につきましては、営業利益56億46百万円（前年同中間期比55.1％増）、経常利益51億91百万円（前年同中間期比95.4％増）、親会社株主に帰属する中間純利益39億59百万円（前年同中間期比127.8％増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①医療用医薬品事業

海外市場におきましては、主力製品である「アサコール」並びに「ディフィクリア」が好調に推移し、業績を牽引いたしました。また、国内市場におきましても、昨年３月に発売した高カリウム血症治療剤「ビルタサ」が好調に推移したことなどにより、引き続き堅調に推移いたしました。

これらの結果、当事業の売上高は、315億38百万円（前年同中間期比20.3％増）となりました。

②コンシューマーヘルスケア事業

ＯＴＣ医薬品市場全体の成長が鈍化する中、天候不順や競合品の影響もあり、「ヘパリーゼ群」などの主力製品につきましては苦戦いたしましたが、ローヤルゼリー群など一部製品群が好調に推移するとともに、海外においてコンドロイチンバルク事業が伸長いたしました。

なお当中間連結会計期間中に、スキンケアブランドのイオナ エフから新シリーズ「イオナ エフ RJ ダーマ」全４製品（導入美容液、薬用化粧水、薬用乳液、薬用クリーム）を発売いたしました。

これらの結果、当事業の売上高は、138億48百万円（前年同中間期比1.3％増）となりました。

③その他

保険代理業・不動産賃貸収入などにより、当事業の売上高は74百万円（前年同中間期比3.6％減）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は1,788億16百万円となり、前連結会計年度末対比８億81百万円の減少となりました。その内訳は流動資産が858億55百万円で、前連結会計年度末対比32億８百万円の増加、固定資産が929億60百万円で、前連結会計年度末対比40億90百万円の減少となっております。流動資産の増減の主なものは、現金及び預金の増加13億99百万円、売掛金の減少８億31百万円、商品及び製品等の棚卸資産の増加20億79百万円であります。また、固定資産の増減の主なものは、無形固定資産の減少27億62百万円、投資その他の資産の減少14億48百万円であります。

当中間連結会計期間末の負債合計は675億１百万円となり、前連結会計年度末対比35億91百万円の減少となりました。その内訳は流動負債が545億89百万円で、前連結会計年度末対比11億19百万円の減少、固定負債が129億12百万円で、前連結会計年度末対比24億72百万円の減少となっております。流動負債の増減の主なものは、買掛金の増加８億53百万円、短期借入金の減少９億40百万円、未払法人税等の減少６億44百万円、賞与引当金の減少５億25百万円であります。固定負債の増減の主なものは、長期借入金の減少11億47百万円、繰延税金負債の減少等固定負債のその他の減少13億27百万円であります。

当中間連結会計期間末の純資産は1,113億14百万円となり、前連結会計年度末対比27億10百万円の増加となりました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益の計上39億59百万円、前期末配当の実施11億１百万円、その他有価証券評価差額金の減少７億67百万円、為替換算調整勘定の増加10億76百万円、退職給付に係る調整累計額の減少４億78百万円等によるものであります。

これらの結果、当中間連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ1.8％上昇し、62.1％となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末対比13億99百万円増加し、290億34百万円となりました。これは投資活動によるキャッシュ・フローが13億89百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが31億66百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが56億42百万円のプラスであったためであります。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間は56億42百万円の資金の増加となりました（前年同中間期比22億52百万円増）。これは、税金等調整前中間純利益の計上51億91百万円、減価償却費の計上42億49百万円、売上債権の減少11億47百万円、棚卸資産の増加19億39百万円、法人税等の支払い27億49百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間は13億89百万円の資金の減少となりました（前年同中間期比１億30百万円増）。これは、有形固定資産の取得による支出９億59百万円、無形固定資産の取得による支出４億30百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間は31億66百万円の資金の減少となりました（前年同中間期比１億84百万円増）。これは、長期借入金の返済による支出17億12百万円、配当金の支払い10億97百万円等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の業績につきまして、経常利益は為替差損の発生により計画を若干下回ったものの、売上高・営業利益・親会社株主に帰属する中間純利益は概ね計画通りに推移いたしました。

第３四半期以降につきましても、概ね計画通りに推移する見込みであることから、現時点では2026年５月８日に公表いたしました通期連結業績予想は変更しておりません。なお、為替相場の先行きが不透明な状況であることから、為替差損益の発生は織り込んでおりません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,760,027	29,159,745
電子記録債権	35,486	51,193
売掛金	31,413,406	30,582,104
商品及び製品	10,994,264	10,780,268
仕掛品	3,551,515	4,731,769
原材料及び貯蔵品	6,351,030	7,464,531
その他	3,200,118	3,734,989
貸倒引当金	△658,965	△648,735
流動資産合計	82,646,882	85,855,867
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,925,036	6,805,382
土地	12,663,993	12,665,099
その他（純額）	8,010,353	8,249,085
有形固定資産合計	27,599,383	27,719,567
無形固定資産		
のれん	3,027,507	2,664,394
販売権	27,088,898	24,634,507
その他	9,465,382	9,520,360
無形固定資産合計	39,581,788	36,819,261
投資その他の資産		
投資有価証券	10,112,376	8,851,203
退職給付に係る資産	19,294,530	19,111,539
その他	492,075	488,082
貸倒引当金	△29,086	△29,011
投資その他の資産合計	29,869,895	28,421,812
固定資産合計	97,051,067	92,960,642
資産合計	179,697,949	178,816,510
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,895,991	5,749,146
短期借入金	33,834,190	32,893,640
未払法人税等	4,827,849	4,183,608
賞与引当金	1,778,324	1,253,078
その他	10,371,773	10,509,539
流動負債合計	55,708,129	54,589,013
固定負債		
長期借入金	5,269,740	4,121,920
退職給付に係る負債	201,368	203,932
資産除去債務	56,629	56,694
その他	9,857,290	8,530,067
固定負債合計	15,385,029	12,912,614
負債合計	71,093,159	67,501,628

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,620,541	5,620,541
利益剰余金	73,545,791	76,402,871
自己株式	△12,204,622	△12,204,642
株主資本合計	73,555,108	76,412,169
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,069,779	2,301,896
為替換算調整勘定	24,628,069	25,704,662
退職給付に係る調整累計額	7,143,784	6,664,925
その他の包括利益累計額合計	34,841,632	34,671,483
非支配株主持分	208,048	231,229
純資産合計	108,604,790	111,314,882
負債純資産合計	179,697,949	178,816,510

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	39,960,908	45,461,283
売上原価	11,169,685	13,279,288
売上総利益	28,791,222	32,181,995
販売費及び一般管理費	25,150,109	26,535,180
営業利益	3,641,113	5,646,814
営業外収益		
受取利息	57,850	53,105
受取配当金	251,217	285,991
その他	131,176	62,256
営業外収益合計	440,243	401,353
営業外費用		
支払利息	240,107	280,690
為替差損	1,057,838	399,622
その他	127,129	176,183
営業外費用合計	1,425,075	856,496
経常利益	2,656,282	5,191,672
特別損失		
固定資産売却損	22	－
固定資産除却損	2,833	0
特別損失合計	2,855	0
税金等調整前中間純利益	2,653,426	5,191,672
法人税等	1,007,002	1,216,400
中間純利益	1,646,424	3,975,272
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に帰属する中間純損失（△）	△91,257	16,206
親会社株主に帰属する中間純利益	1,737,682	3,959,065

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	1,646,424	3,975,272
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	378,571	△767,883
為替換算調整勘定	1,342,145	1,084,632
退職給付に係る調整額	△293,400	△478,858
その他の包括利益合計	1,427,316	△162,108
中間包括利益	3,073,740	3,813,163
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	3,189,443	3,788,916
非支配株主に係る中間包括利益	△115,702	24,246

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,653,426	5,191,672
減価償却費	3,165,021	4,249,750
のれん償却額	354,469	369,119
賞与引当金の増減額（△は減少）	△453,338	△539,538
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△4,533	2,564
受取利息及び受取配当金	△309,067	△339,096
支払利息	240,107	280,690
為替差損益（△は益）	446,056	△159,582
売上債権の増減額（△は増加）	2,326,671	1,147,862
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,908,200	△1,939,582
仕入債務の増減額（△は減少）	967,276	804,202
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△485,080	△565,890
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△804,175	290,975
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△280,799	△509,990
その他	△26,869	45,894
小計	4,880,964	8,329,052
利息及び配当金の受取額	308,927	339,191
利息の支払額	△245,992	△276,745
法人税等の支払額	△1,553,780	△2,749,321
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,390,119	5,642,176
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△125,000	△125,000
定期預金の払戻による収入	125,000	125,000
有形固定資産の取得による支出	△1,272,304	△959,668
無形固定資産の取得による支出	△247,292	△430,577
その他	△62	755
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,519,658	△1,389,490
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△419,000	△114,600
長期借入金の返済による支出	△1,663,500	△1,712,420
リース債務の返済による支出	△209,923	△240,600
自己株式の取得による支出	△90	△20
配当金の支払額	△1,055,667	△1,097,336
非支配株主への配当金の支払額	△2,717	△1,039
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,350,899	△3,166,016
現金及び現金同等物に係る換算差額	540,456	313,047
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△939,982	1,399,718
現金及び現金同等物の期首残高	23,467,676	27,635,027
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,527,694	29,034,745

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（会計上の見積りの変更に関する注記）

当社子会社であるTillotts Pharma AGが保有する製品「ディフィクリア」の販売権につきましては、経済的便益の発生が期待される期間をもとに耐用年数を見積って償却しておりますが、今後の後発品参入可能性が高まったことから耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

この結果、当中間連結会計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益はそれぞれ779,854千円減少しております。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

税金費用の計算

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日　至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	医療用医薬品事業	コンシューマーヘルスケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,208,664	13,675,354	39,884,019	76,889	39,960,908	―	39,960,908
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	48	48	239,130	239,178	△239,178	―
計	26,208,664	13,675,402	39,884,067	316,019	40,200,087	△239,178	39,960,908
セグメント利益	3,422,072	3,170,897	6,592,969	88,531	6,681,501	△3,040,387	3,641,113

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額△3,040,387千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

３　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	医療用医薬品事業	コンシューマーヘルスケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	31,538,301	13,848,865	45,387,166	74,117	45,461,283	―	45,461,283
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	49	49	224,806	224,855	△224,855	―
計	31,538,301	13,848,914	45,387,215	298,923	45,686,139	△224,855	45,461,283
セグメント利益	5,883,986	2,968,420	8,852,407	99,535	8,951,942	△3,305,128	5,646,814

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額△3,305,128千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

３　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（重要な後発事象の注記）
取得による企業結合
当社のスイス子会社であるTillotts Pharma AGは、Aenova Holding GmbHよりHaupt Pharma Wülfling GmbHの全持分を取得することについて、2026年10月23日（スイス時間）付けで持分譲渡契約を締結いたしました。
詳細は、2026年10月26日公表の「当社連結子会社によるHaupt Pharma Wülfling GmbHの持分取得（孫会社化）に関するお知らせ」をご覧ください。

３．補足情報

（１）主要製商品売上高　連結

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	増減（△）率（%）
1.医療用医薬品事業	26,208,664	31,538,301	20.3
アサコール	9,843,956	12,544,095	27.4
ディフィクリア	9,852,150	11,797,307	19.7
エントコート	1,850,690	1,840,951	△0.5
アコファイド	1,568,239	1,600,407	2.1
その他	3,093,627	3,755,539	21.4
2.コンシューマーヘルスケア事業	13,675,354	13,848,865	1.3
ヘパリーゼ群	6,427,756	6,324,189	△1.6
コンドロイチン群	2,897,235	2,852,835	△1.5
ウィズワン群	737,757	699,937	△5.1
その他	3,612,604	3,971,903	9.9
3.その他の事業	76,889	74,117	△3.6
合　　計	39,960,908	45,461,283	13.8

（２）新薬パイプラインの状況

Ⅰ．国内開発状況　　（2026年11月４日現在）

開発段階	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	起源
申請中	Ｚ－３３８／アコチアミド	ゼリア	小児機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品
フェーズⅡ	ＺＧ－８０２／アコチアミド	ゼリア	低活動膀胱	下部尿路機能改善作用	自社品
フェーズⅡ （特定臨床研究）	Ｚ－１００	特定非営利活動法人 North East Japan Study Group	非小細胞肺癌	免疫調節作用	自社品

Ⅱ．海外開発状況

開発段階	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	起源
承認 （コスタリカ）	Ｚ－３３８／アコチアミド	Faes Farma	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品(導出)
申請中 （ベトナム）	Ｚ－３３８／アコチアミド	Pharmaceutical Joint Stock Company of February 3rd	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品
申請中 （コロンビア、 パナマ）	Ｚ－３３８／アコチアミド	Faes Farma	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品(導出)
フェーズⅢ （欧州、米国、カナダ）	Ｚ－３３８／アコチアミド	Agastra-Lab s.r.l.	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品(導出)

発売となった開発品

発売日	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	起源
2026年８月 （ニカラグア）	Ｚ－３３８／アコチアミド	Faes Farma	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品(導出)